

キーワード: C^∞ -atlas, C^∞ -級多様体, 多様体上の接空間, 多様体上のベクトル場

問 37. U_1, U_2 をそれぞれ $\mathbb{R}^{n_1}, \mathbb{R}^{n_2}$ の空でない開集合とする ($n_1, n_2 \in \mathbb{Z}_{\geq 0}$). また $\{U_{1,\lambda}\}_{\lambda \in \Lambda}$ を U_1 の開被覆であって, $U_{1,\lambda} \neq \emptyset$ (for any $\lambda \in \Lambda$) となるものとする. このとき, 写像 $\varphi: U_1 \rightarrow U_2$ について, 以下の二条件が同値であることを示せ (講義: Proposition 9.2):

条件 (i): $\varphi: U_1 \rightarrow U_2$ は C^∞ -級写像.

条件 (ii): 任意の $\lambda \in \Lambda$ について, 制限写像 $\varphi|_{U_{1,\lambda}}: U_{1,\lambda} \rightarrow U_2$ は C^∞ -級写像.

問 38. (重要) $S^1 = \{(x_1, x_2) \in \mathbb{R}^2 \mid x_1^2 + x_2^2 = 1\}$ ($\subset \mathbb{R}^2$) とする. S^1 上の局所座標系 $(O_i^\pm, U_i^\pm, \mathbf{u}^{i,\pm})$ ($i = 1, 2$) を以下のように定める:

$$\bullet O_1^\pm = \{x \in S^1 \mid \pm x_1 > 0\} \subset S^1, U_1^\pm = (-1, 1) \subset \mathbb{R},$$

$$\mathbf{u}^{1,\pm}: O_1 \rightarrow U_1, x \mapsto x_2,$$

$$\bullet O_2^\pm = \{x \in S^1 \mid \pm x_2 > 0\} \subset S^1, U_2^\pm = (-1, 1) \subset \mathbb{R},$$

$$\mathbf{u}^{2,\pm}: O_2 \rightarrow U_2, x \mapsto x_1.$$

以下, $(O_i^\pm, U_i^\pm, \mathbf{u}^{i,\pm})$ ($i = 1, 2$) がそれぞれ S^1 の 1 次元局所座標系であることは認めてよいこととする. ここで $\mathcal{A}_0 = \{(O_i^+, U_i^+, \mathbf{u}^{i,+}), (O_i^-, U_i^-, \mathbf{u}^{i,-}) \mid i = 1, 2\}$ (4 枚の局所座標系の集合) とおく.

(1) 定義に従って \mathcal{A}_0 が S^1 上の 1 次元 C^∞ -atlas であることを示したい. 何を示せばよいか述べよ.

(2) $O_1^+ \cup O_1^- \cup O_2^+ \cup O_2^- = S^1$ を示せ.

(3) $(O_1^+, U_1^+, \mathbf{u}^{1,+})$ から $(O_2^-, U_2^-, \mathbf{u}^{2,-})$ への座標変換を $\tau_{(1,+),(2,-)}$ とおく. $\tau_{(1,+),(2,-)}$ を書き下せ (定義域, 値域も求めよ). また $\tau_{(1,+),(2,-)}$ が C^∞ -級写像であることを示せ.

(4) \mathcal{A}_0 が S^1 の C^∞ -atlas であることを認める.

$$f: S^1 \rightarrow \mathbb{R}, x \mapsto x_1 x_2$$

とおく. このとき, $f \in C^\infty(S^1; \mathcal{A}_0)$ となることを示せ.

問 39. \mathcal{A}_0 を位相空間 M 上の C^∞ -atlas とする. $C^\infty(M; \mathcal{A}_0)$ が $C^0(M)$ の部分 \mathbb{R} -代数であることを示せ (講義 Proposition 9.9). (Hint: Proposition 6.17 および部分 \mathbb{R} -代数について的一般論 (補足プリント参照) を用いてよい)

問 40. \mathcal{A}_0 を位相空間 M 上の n 次元 C^∞ -atlas とする (講義: Proposition 9.13).

(1) $[\mathcal{A}_0]$ が M 上の n 次元 C^∞ -atlas であることを示せ.

(2) $[\mathcal{A}_0]$ が M 上の n 次元 C^∞ -atlas として極大であることを示せ.

(3) \mathcal{A}_0 を含む n 次元極大 C^∞ -atlas は $[\mathcal{A}_0]$ のみであることを示せ.

問 41. \mathcal{A} を位相空間 M 上の n 次元極大 C^∞ -atlas とする. このとき連続関数 $f \in C^0(M)$ について, 以下の二条件が同値であることを示せ (講義: Corollary 9.18):

条件 (i): $f \in C^\infty(M; \mathcal{A})$.

条件 (ii): 任意の $p \in M$ について, $(O, U, \mathbf{x}) \in \mathcal{A}$ with $p \in O$ であって, $f \circ \mathbf{x}^{-1} \in C^\infty(U)$ となるものが存在する.

(Hint: (ii) を仮定して (i) を示すパートについて:) 各 $p \in M$ について, $(O_p, U_p, \mathbf{x}^p) \in \mathcal{L}\mathcal{C}(M; \mathbb{R}^n)$ を $p \in O_p$ かつ $f \circ (\mathbf{x}^p)^{-1} \in C^\infty(U_p)$ となるようにそれぞれ選ぶ. このとき $\mathcal{A}_0 = \{(O_p, U_p, \mathbf{x}^p) \mid p \in M\}$ が M 上の C^∞ -atlas であって, $[\mathcal{A}_0] = \mathcal{A}$ となることを示せば, Theorem 9.16 が使える.)

裏へつづく

問 42. (重要) $\varphi: \mathbb{R}^{n+k} \rightarrow \mathbb{R}^k$ ($n, k \in \mathbb{Z}_{\geq 0}$) を C^∞ -級写像とする. また $q \in \varphi(\mathbb{R}^{n+k})$ を固定し, $S_q := \varphi^{-1}(q)$ とおく. ここで任意の $p \in S_q$ について, $(d\varphi)_p: T_p\mathbb{R}^{n+k} \rightarrow T_q\mathbb{R}^k$ が全射であるとする.

(1)

$$\mathcal{A}_0 := \{(O, U, \mathbf{u}) \in \mathcal{L}\mathcal{C}(S_q; \mathbb{R}^n) \mid (O, U, \mathbf{u}) \text{ は } \mathbb{R}^{n+k} \text{ 内で正則}\}$$

とおく. このとき \mathcal{A}_0 が S_q 上の n 次元 C^∞ -atlas となることを示せ. (講義中のどのような定理を用いたか述べよ).

(2) n 次元 C^∞ -級多様体 $S_q = (S_q, [\mathcal{A}_0])$ について考える. D を \mathbb{R}^{n+k} の開集合であって, $S_q \subset D$ となるものとする. このとき, 任意の $\tilde{f} \in C^\infty(D)$ について, $f := \tilde{f}|_{S_q}$ は $(S_q, [\mathcal{A}_0])$ 上 C^∞ -級であること (i.e. $f \in C^\infty(S_q)$) を示せ.

問 43. (重要) $M = (M, \mathcal{A})$ を n 次元 C^∞ -級多様体とする. $p \in M$ および $(O, U, \mathbf{x}), (O', V, \mathbf{y}) \in \mathcal{A}$ with $p \in O \cap O'$ を固定する.

(1) 各 $j = 1, \dots, n$ について, 写像

$$\left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{x}_j}\right)_p: C^\infty(M) \rightarrow \mathbb{R}$$

の定義を述べ, $\left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{x}_i}\right)_p \in T_p M$ となることを示せ.

(2) (期末試験予告問題: 発表なし) 各 $j = 1, \dots, n$ について,

$$\left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{x}_j}\right)_p = \sum_{i=1}^n ((J\tau_{\mathbf{x}\mathbf{y}})_{\mathbf{x}(p)})_{ij} \left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{y}_i}\right)_p$$

となることを示せ (講義: Theorem 10.4; Hint: Proposition 5.12 を用いる). ただし以下の Observation A を用いてよい:

Observation A: $q \in U_0 \subset U \subset \mathbb{R}^n$ (U, U_0 は open in \mathbb{R}^n) とし, $g \in C^\infty(U)$ とする. このとき

$$\left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{x}_i}\right)_q (g) = \left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{x}_i}\right)_q (g|_{U_0}) \quad (\text{in } \mathbb{R}).$$

問 44. (重要) $M = (M, \mathcal{A})$ を 3 次元 C^∞ -級多様体とする. $p \in M$ とし, $(O, U, \mathbf{x}), (O', V, \mathbf{y}) \in \mathcal{A}$ with $p \in O \cap O'$ が以下を満たすとする:

- $U = \mathbb{R}^3, V = \mathbb{R}^3, \mathbf{x}(p) = (1, 1, 1), \mathbf{y}(p) = (\frac{1}{3}, \frac{1}{3}, \frac{1}{3})$.
- $\mathbf{x}(O \cap O') = \mathbb{R}^3 \setminus \{0\}, \mathbf{y}(O \cap O') = \mathbb{R}^3 \setminus \{0\}$,
- $\tau_{\mathbf{x}\mathbf{y}}: \mathbb{R}^3 \setminus \{0\} \rightarrow \mathbb{R}^3 \setminus \{0\}, (x_1, x_2, x_3) \mapsto \frac{1}{x_1^2 + x_2^2 + x_3^2} (x_1, x_2, x_3)$.

(1) $f \in C^\infty(M)$ が

$$f \circ \mathbf{x}^{-1}: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}, (x_1, x_2, x_3) \mapsto \frac{2x_1(x_1^2 + x_2^2 + x_3^2 - 1)}{1 + x_1^2 + x_2^2 + x_3^2}$$

かつ

$$f \circ \mathbf{y}^{-1}: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}, (y_1, y_2, y_3) \mapsto \frac{-2y_1(y_1^2 + y_2^2 + y_3^2 - 1)}{1 + y_1^2 + y_2^2 + y_3^2}$$

となるとする. このとき $\left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{x}_j}\right)_p (f) \in \mathbb{R}$ ($j = 1, 2, 3$) および $\left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{y}_i}\right)_p (f) \in \mathbb{R}$ ($i = 1, 2, 3$) をそれぞれ求めよ.

(2) 座標変換 $\tau_{\mathbf{x}\mathbf{y}}$ の $\mathbf{x}(p)$ におけるヤコビ行列 $(J\tau_{\mathbf{x}\mathbf{y}})_{\mathbf{x}(p)}$ を計算せよ. また $\left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{x}_j}\right)_p$ ($j = 1, 2, 3$) をそれぞれ $\left(\frac{\partial}{\partial \mathbf{y}_i}\right)_p$ ($i = 1, 2, 3$) の一次結合で書き表せ.